



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第二三五号〜

しゅうぶん
秋分

九月二十二日

小鳥も来る

昼と夜の時間がほぼ等しくなる二十四節気の秋分。同日が秋分の日として昭和二十三年に国民の祝日として制定されました。この日の日の出と日没の時間を調べてみると、鳥羽市で日の出午前五時四十一分、日の入り午後五時五十分と実測でもほぼ同じ。昔の人はどうやって測ったものかと感心せずにはいられません。ちなみに秋分の日の出と日の入りの位置は真東と真西にあたりますから、天体的にも重要な日なのです。

この頃、おかげ横丁では、「来る福招き猫まつり」が賑やかに行われます。九月二十九日は「くるフク」の語呂合わせで招き猫の日と制定されているため、様々な縁を結んでくれた招き猫に感謝するおまつりで、今年で二十二回を数えます。

秋、伊勢へは招き猫がやって来るのですが、俳句の秋の季語には「小鳥来る」というのがあります。おほらい町の家並をすいすい飛んでいたツバメは、子育てを終えて南方へ帰ってしまいますが、秋日本に飛来するジョウビタキやレンジャク、山地から平地に下りて来るカラ類などの小鳥が飛び交う姿がこれからは見られるようになります。江戸時代の俳人、与謝蕪村は「小鳥来る」心躍る気持ちを一句に詠んでいました。

小鳥来るうれしさよ板びさし

蕪村

おかげ横丁にも巣箱がかけられているのを教えてもらいました。十箱あるそうです。「灯りの店」の入口近くに立つ木を見ると、三十センチくらいの木の巣箱を見つけました。招き猫に、小鳥も招いてほしいものです。

文 千種清美

